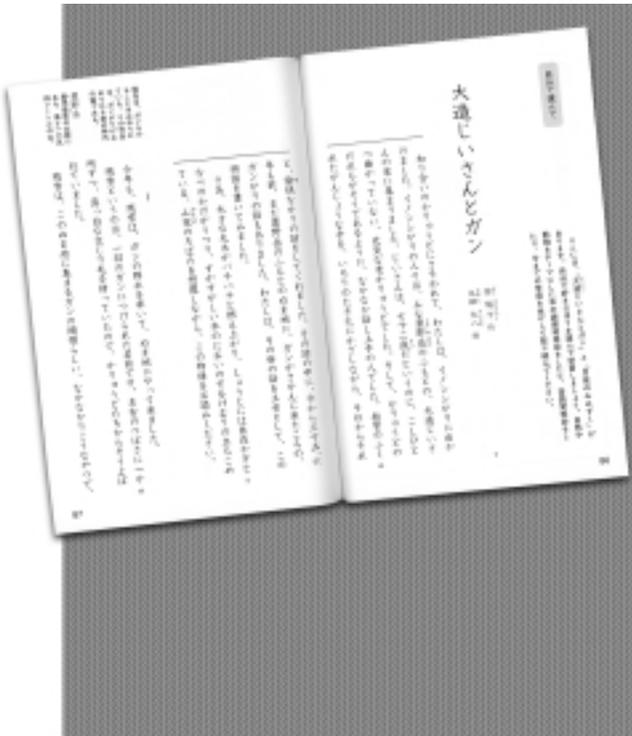


自ら学ぶため課題例を活用し、 個人学習へ

五年(下)自分で選んで 「大造じいさんとガン」

「月夜のみみずく」

(十二時間)



一 学習の場の設定

個人学習への動機づけを大切に

第五学年の最後に設定されている教材「自分で選んで」は、一年間の学習のまとめとして今までの学習を振り返り、自力で課題を解決する学習の場としてとらえます。自力で解決するといっても、児童の力だけでは限界があります。ただ教科書に載っているからではなく、教材の特色を明確にした上で、教材を選択させていきたいと考えます。教材を選択するにはそこまで至る児童の興味・関心が重要になります。ここでは、前半の四時間を使い、全員がそれぞれの教材に触れるようにします。ここで学習の視点を教師から提示するのです。「この」でどのように学習するかが明確になり、学習に対する意欲や興味・関心が深まり、個人学習への動機づけとなります。さらに、個人学習がスムーズに進むために、あらかじめ教師から課題例を提示します。それを有効に活用することで、個人学習がより深まり、交流し合う時間も確保することができます。

二 学習の視点を明確に

- ・「大造じいさんとガン」では読みを追求する。
- ・読み取りは、ワークシートでしっかりと行う。
- ・登場人物の心情や情景描写を中心に下で示すような学習の視点を与える。()
- ・読み取ったことをもとに学習課題を設定する。
- ・(あらかじめ次ページのような課題例として教師から提示する。)
- ・交流する。(課題別小グループでの交流など)
- ・「月夜のみみずく」では詩の世界を広げる。
- ・音読し、表現技巧やリズムについて学ぶ。
- ・(表現、リズムだけでなく情景描写や登場人物について次ページのような視点を与えておく。)
- ・読み取ったことをもとに学習課題を設定する。
- ・(あらかじめ次ページのような課題例を教師から提示する。)
- ・交流する。(課題別小グループでの交流など)

三 個人学習は学習課題例を生かして

第一次 「大造じいさんとガン」を読み取る。(二時間)
ワークシートを使い、学習の視点をもとに考える。

学習の視点

- ・一年目の残雪への考え方は？
 - ・二年目の残雪への考え方は？
 - ・ハヤブサとの戦いの場面でなぜ残雪をとらえなかったのか？
 - ・残雪に対する卑怯ひしやうなやり方とは？
 - ・「残雪と正々堂々と戦つ」という意味は？
 - ・大造じいさんの気持ちを表す情景描写は？
- 第二次 「月夜のみみずく」を音読する。(二時間)
ワークシートを使い、学習の視点をもとに考える。

学習の視点

- ・場面をイメージできる表現は？
 - ・リズムによって音読できる表現は？
 - ・登場人物の気持ちが表れている表現は？
- 第三次 教材を選び、学習課題を決める。(一時間)
学習課題例を参照
- 第四次 課題を追究する。(小グループ学習)(六時間)
補助資料を準備し、必要に応じて与える。
- 第五次 学習成果を交流し合う。(一時間)

第二次の課題例

課題例

大造じいさんとガン（読みを追求する）
大造じいさんの残雪に対する考え方が変化していく様子を読み取る。

・考え方が書かれている表現を抜き出しつなげていく。

・大造じいさんの残雪への呼称の変化から大造じいさんの考え方を読み取る。

大造じいさんの気持ちが表示されている情景描写を抜き出しそれぞれについて考える。

課題例

月夜のみみずく（詩の世界を広げる）

詩の世界を味わうために小グループで分担し、音読のしかたを工夫する。

気に入った表現や、表現技巧をもとに詩を作り、オリジナルの詩集を作る。

情景が豊かな詩やリズムカルに音読できる詩、訳者である工藤直子の詩などを読み、紹介文を書いたり、気に入った詩を集めたりして詩の選集を作る。

教師側で代表的な作品をリストにして提示することも考えられる。

【大造じいさんとガン「ワークシート」】

大造じいさんの考えを行動から読み取ろう。

一年目の残雪への考えは？

大造じいさんの作戦（一年目）

大造じいさんの行動

残雪たちガンの行動

残雪の行動に対して大造じいさんの考え

四 評価について

評価については、学習段階ごとに、チェックリスト（次ページ）を使い、行います。備考には、学習の中での顕著な児童の様子をメモしておきます。児童用のチェックリストも準備し、同じ観点で振り返りをさせます。

評価基準については次のような観点で判断します。

A 視点に沿って課題が選択でき、学習成果をまとめ、きちんと交流できる。

B 文章が選択でき、課題について学習を進めることができる。

C（手だて） 課題選択の場面にもどり、何を、どのように学習していくか助言し、もつ一度確認させる。

五 終わりに

前半の四時間で学習の視点を提案することで、教材を選択することができ、どのように学習するかが明確になります。さらに、課題例を教師から提案することで児童の活動が脇道にそれることを防ぎ、より学習も深まると思います。

限られた時間の中で学習活動を進めていくためには、児童の実態に合ったきめ細かな補助資料の準備（ワークシート・参考文献のリストなど）が求められます。

【チェックリスト（教師用）】

項目	評価	備考
第一次 視点にもとづき、大造じいさんの気持ちを考えることができる。		
第二次 情景や気持ちを表す表現、表現技巧に気がつき音読することができる。		
第三次 前時の学習をもとに自分の課題を決めることができる。		
第四次 課題に沿って進んで学習を進めることができる。		
第五次 学習した成果を分かりやすく発表することができる。		